

深志同窓会々報

題字 中山久四郎
 (松中10回 文学博士)
 発行所 深志同窓会
 松本市蟻ヶ崎3-3-1
 深志教育会館内
 発行人 中嶋嶺雄
 編集 広報委員会
 印刷 電算印刷株式会社
 http://www.fukashi-alumni.org/

若い世代の参加期待



中嶋会長 対談 内川副会長

活性化へ広報体制強化

会報年一回に定期化 HP大幅リニューアル

深志同窓会は広報体制を強化して活性化を図ることになりました。不定期刊行だった同窓会報を毎年一回の定期発行とし、ホームページ（HP）を大幅にリニューアルしました。開校百四十周年を視界にとらえたいま、母校同窓会の伝統に新しい活力をどう吹き込んでいくべきか。中嶋嶺雄会長と内川小百合副会長に対談をしていただきました。

内川 同窓会長も二期目になりますが、現在のお気持ちはいかがですか。

中嶋 最初、私で務まるのかどうか心配でした。松本に常にいるわけではありませんが、重い責任を考えると内心忸怩たるものがありました。副会長をはじめ役員の方々が大変よくサポートしてくださり、感謝しております。

内川 深志同窓会として中嶋先生にお願いしていたことは大変ありがたいことです。同窓会がこんなふうになればいいなという



中嶋会長

お考えはありますか。中嶋 会長として各支部等の集まりにも出席しますが、それぞれ盛んにやっている中で、出席者が高齢化し、若い人の参加が少ないように感じます。われわれの年代になると懐かしさから集まってくるのですが、若い人をいかに引きつけていく

かが課題ですね。どこの同窓会もそうだと思いますが、若い人にとって魅力のある同窓会にしていきたいと思えます。そんな中で、今回同窓会報が年一回発行されたり、HPが充実したことは、総会などのお知らせをするのを含めて、大変よいことだと思います。内川 総会のお知らせというのと、よく「総会って誰

でも出席できるの」と聞かれます。当たり前なのに、現状ではそんな感じですね。役員しか出席できないかのように受け止められていないか。中嶋 総会案内は役員には知らせていますし、総会開催のお知らせは新聞にも掲載されています。でもその新聞を読まなければ意味をなさないので、内川 新聞掲載も全国にいる同窓生にもれなく情報が伝わるわけではありませぬ。中嶋 やはり会報とHPを有効に活用したいですね。

残したい知的文化遺産

中嶋 当面の同窓会の大きな課題は百四十周年をどうしていくかということですね。百三十周年の時は皆様のご協力で立派な深志教育会館を造りましたが、今度の百四十周年は皆さんのお知恵をお借りして、ハード面ではなくソフト面がいろいろ考えられますので、知的な文化遺産が残るようなものにしていきたいと思います。同窓生のみでなく、広く郷土の偉人も顕彰することが大事で、そういう中で同窓生のアイデンティティが高まり、これからの知識基盤社会（Knowledge based society）で、深志と松本をアピールしていくことにもなると思います。

内川 同窓会は一つの知的集団として、立派な先人たちのアピールすることで、若い人たちのホームカミングに繋がるといいですね。中嶋 私のいる国際教養大学では大学の折、同窓生も参加してシンポジウムなどを行っています。深志にもとんぼ祭があります。そこに同窓会も一緒にいって何か行おうのいいと思えます。深志同窓会の特徴でもある尚学塾もそうですが、われわれ大人の方から仕掛けを作ってやらないといけないですね。

内川 何か同窓会としてやってみたいですね。中嶋 それにつけても同窓会運営のためには安定的な財源の確保が大事です。一般的には、高校を卒業し

内川 同窓生の活動をみると、六十代から上の世代にくらべて四十代から下の世代の同窓生の関わりが少ないですが、今回のHPリニューアルでは若い人がよく動いてくれました。若い世代も声をかければよくやってくれます。委員会の中に若い人を入れていくことで組織も活性化されます。これからの時代はこういう同窓会をつくりたいか、ということをお聞きしたいですね。同窓生には深志高校はいい学校だと誇りに思っている人が多くいると思います。その人たちにホームカミングしてもらおうということが大切ですね。

中嶋 本間にそうなんです。内川 中嶋会長就任後、同窓会もいろいろ変わってきたと思うのですが、会長としてこれから特に進めていきます。

内川 同窓会の会員になるのに、わが同窓会が高校に入学したときに入会金を払ってもらうって会員になっていきます。そして同窓会の収入の殆どを新入生に頼っているのが実情です。現状と違った方向に急転換するのは難しいかもしれません。同窓会本来のあり方からすればいいかなものではないか。自分たちも会費を払うことで同窓会員としての自覚も出てくるのではないのでしょうか。正副会長会議でも議論をしていきたいと思

中嶋 いま一番大きいのは深志教育会館を今後どう維持していくか、ですね。無理のない会費を設定して同窓会員からいただくことができないでしょうか。ほかに賛助会員を募るとか、ポケットマネーをお願いするとか。年間一千万円前後の経費がかかると思えば、深志同窓会の底力をもって

内川 アイデンティティはやはり会費を納めることから始まるということ、自分たちの同窓会としてメンバーシップを強調したいですね。

中嶋 先日ロンドンに行った時、高校も大学も私の後輩だというロンドン在住の女性の同窓生と会いまして、同窓会のことは何も知りませんでした。これからのグローバル化の時代に合った情報の発信と、貴重な海外体験の紹介など、双方向での情報交換が必要だと感じます。

内川 先日はお話を伺ってきて中嶋会長の同窓会に寄せる思い、同窓会の課題などが改めて分かってきました。この同窓会報が発行されたのち、いろいろのご意見をHPにお寄せいただきたいと思います。母校の同窓会がより発展するように知恵と力を貸していただきたいと思います。



内川副会長

内川 同窓会は一つの知

一般的には、高校を卒業し

内川 同窓会の会員になるのに、わが同窓会が高校に入学したときに入会金を払ってもらうって会員になっていきます。そして同窓会の収入の殆どを新入生に頼っているのが実情です。現状と違った方向に急転換するのは難しいかもしれません。同窓会本来のあり方からすればいいかなものではないか。自分たちも会費を払うことで同窓会員としての自覚も出てくるのではないのでしょうか。正副会長会議でも議論をしていきたいと思

中嶋 いま一番大きいのは深志教育会館を今後どう維持していくか、ですね。無理のない会費を設定して同窓会員からいただくことができないでしょうか。ほかに賛助会員を募るとか、ポケットマネーをお願いするとか。年間一千万円前後の経費がかかると思えば、深志同窓会の底力をもって

内川 アイデンティティはやはり会費を納めることから始まるということ、自分たちの同窓会としてメンバーシップを強調したいですね。